

令和２年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

■ 育てたい生徒像： ○岸高生の誇りと高い志を持ち、主体的な学びができる爽やかで骨太の生徒 ○チャレンジ精神に富み、将来、リーダーとして、未来を拓きグローバルに活躍する生徒 ■ 目標とする学校像：「すべての教育活動を通じ、生徒・教職員がともに、主体的な学びで成長する学校」をめざす	
創立120年を超える歴史を有する本校の役割は、生徒・保護者・地域・社会の期待に応じた生徒の進路実現を図り、地域・社会に有為で未来を拓く人材を育成することにある。「グローバル・リーダーズ・ハイスクール（GLHS）」と「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」としての責務を理解し、さらに充実した教育活動の展開を図る。	

2 中期的目標

1 確かな学力の確立とグローバルリーダーの育成 (1)生徒の持つ力を最大限に引き出す。 ア 「主体的・対話的で深い学び」の授業を探求し、授業公開週間や教員研修等で、学校組織としての授業改善に取り組み、確かな学力の育成をめざす。 イ 「岸高学びのスタイル」を各教科で作成・共有し、3年間の指導目標を教員間で確認する。 ウ 「土曜の午前は学習タイム」を徹底し、生徒が主体的に学ぶ環境を整える。 授業アンケート項目8「授業に興味・関心を持つことができた」項目9「知識や技能が身についた」の平均を3.20/4.0以上に。(平成29年度 3.08 平成30年度 3.16 令和元年度 3.19) (生徒向け)学校教育自己診断「土曜日の午前中を学習に活用」を60%以上に。(平成29年度 54.7% 平成30年度 61.2% 令和元年度 56.8%) (2)グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）としての学力向上・活動内容の充実を図る。 ア 4技能統合型の英語授業の導入により、英語で「聞く・話す・読む・書く」運用力をバランスよく身につけさせる。 イ グローバルリーダー養成プログラム等により、海外の大学生や高校生との交流を通じてディスカッション・プレゼンテーション能力を育成する。 ウ 地域協働や外部連携等により、SSHやGLHSの活動を深化し、次期SSH事業の準備を進める。 エ ICT機器を活用しながら、課題研究の指導手法を一般教科に広める。 (生徒向け)学校教育自己診断「岸高での授業に満足」を85%以上に。(平成29年度 76.0% 平成30年度 80.7% 令和元年度82.3%) (3)「朝読」(読書活動)を実施し、思考力、表現力を養う手段として教科指導と連動し、有効に活用する。	
2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み (1)GLHS、SSH事業を活用して3年間を見据えたキャリア教育を実施し、生徒が主体的に考え、それぞれの将来像を描けるよう、「学び方を学ぶ」・「学びに向かう力をつける」ことをめざす。 ア 各種講演や研修、実習を通して、興味関心を高める体験的キャリア教育を体系的に行う。 イ 大学・研究機関への訪問により、生徒が視野を広げ、主体的に学びに向かう力を育む。 ウ 全員が課題研究に取り組む体制を確立する。 SSHアンケート「文理課題研究を通して『知りたい』という気持ちが高まった」を70%以上を維持。(平成29年度 50% 平成30年度 74% 令和元年度 75%) SSHアンケート「キャリアスタートゼミを通して自身のキャリアを考えるきっかけになった」を70%以上を維持。(平成29年度 27% 平成30年度 34% 令和元年度 81%) (2)国公立大学志望90%以上という生徒の進路希望の実現をサポートし、海外の大学への進学にも対応する。 ア 新大学入試に対応した進路指導の取組みをさらに充実する。 イ 岸高手帳を活用することにより、学習習慣、時間管理能力と様々な活動をポートフォリオとして記録していく習慣を確立させる。 ウ 「岸高スーパー講習」「岸高スーパークラス」を円滑に運営し、一層高い志を持った生徒が互いに切磋琢磨し、生徒の能力を最大限に引き出せるようにする。 国公立大学進学者を60%以上(H28,29年度で50.2% H29,30年度で51.8%、H30,31年度で56.5%) 難関大学(東大・京大・阪大・神大など)の受験者増。 (生徒向け)学校教育自己診断「将来の進路や職業などについて適切な指導」85%以上を維持。(平成29年度 84.6% 平成30年度 89.7% 令和元年度 94.1%) 海外大学進学者1名以上をめざす。(平成29年度 1人 平成30年度 1人 令和元年度 2人)	
3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み (1)「文武両道」をめざし、学習とクラブ活動・学校行事の両立への意識を高める。 ア 学校生活の主体的な取組みを充実し、多様な人々と協働できるよう、豊かな感性や体力を育む。 イ クラブ活動の奨励とクラブ活動を核にしたリーダーを育成する。 ウ 社会人としてのマナー、人権意識、主権者意識を醸成する。 (生徒向け)学校教育自己診断「クラブ活動が活発」を90%以上に。(平成29年度 90.3% 平成30年度 92.4% 令和元年度94.5%) (生徒向け)学校教育自己診断「社会人としてモラルを守る態度を育てようとしている」を80%以上に。(平成29年度79.4% 平成30年度84.9% 令和元年度88.3%) (2)教育相談室(教育相談・支援教育)を充実し、支援の必要な生徒のためのメンタルサポート体制を確立する。 (生徒向け)学校教育自己診断「困ったときに気軽に相談できる」を70%に。(平成29年度 52.5% 平成30年度 66.5% 令和元年度 65.8%) (3)台湾の姉妹校やドイツの高校との相互交流や協働研究で、グローバルリーダーとしての精神を育成する。 (生徒向け)学校教育自己診断「海外研修やSSH関連行事など他校にはない教育活動がある」の90%以上を維持。(平成29年度 85.9% 平成30年度 87.5% 令和元年度92.1%)	
4 地域・保護者との連携と社会参加・社会貢献 (1)SSHの成果・GLHSの活動等や学校情報を収集し、地域や保護者に情報を発信する。 (2)近隣の学校や団体と連携を密にし、地域を中心とした社会参加・社会貢献に取り組む。 (3)生徒と教職員が安全で安心に過ごせる学習環境を充実させる。 (保護者向け)学校教育自己診断における情報提供の満足度 90%以上を維持。(平成29年度 86.2% 平成30年度 91.6% 令和元年度 90.1%)	

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の確立とグローバルリーダーの育成	(1)生徒の持つ力を最大限に引き出す。 ア「主体的・対話的で深い学び」の授業を探究。 イ「岸高学びのスタイル」を作成・共有。 ウ「土曜の午前は学習タイム」。	(1)ア アクティブラーニング(AL)の視点での授業やICT機器を活用した授業に全授業担当者が取り組む。 イ ・「岸高学びのスタイル」を作成し、教科目標を担当者が共有し、生徒の進路実現を図る。 ・教科別の公開授業週間を活用し、外部へ公開する。また、外部の助言者を招き、指導教諭を中心に、授業力向上をめざす校内研修を行う。 ウ ・「千亀利セミナー」(土曜の自学自習)の実施。各教科の講習の充実。 ・苦手意識を持つ生徒の教科指導「サポート講習」の充実 ・土曜日の1年生対象「岸高スーパー講習」の円滑実施	(1)ア.授業アンケートの項目8「授業に興味・関心を持つことができた」と項目9「知識や技能が身についた」を3.20以上にする。(R1年度 平均3.19/4点満点) イ.(生徒向け)学校教育自己診断における「岸高での授業に満足」を85%以上に(R1年度 82.3%) ウ.・「千亀利セミナー」を4月に1年全員に実施。生徒に継続させるよう、工夫をする。 ・サポート講習の実施を考査前だけでなく土曜日等を活用し、継続的に実施。 (生徒向け)学校教育自己診断における「土曜日の午前中を学習に活用」を60%以上に(R1年度56.8%) ・1学期に募集選考し、9月に開始し、一層志を高く持つ生徒の能力を伸ばす。 生徒アンケート「受講してよかった」80%以上(R1年度 83,3%)「実力がついた」75%以上(R1年度 77,8%) (2) (生徒向け)学校教育自己診断における「他校にはない教育活動がある」の90%以上を維持。 各研修・講座の参加満足度 90%以上 を維持する ウ ・鳥類海外フィールドワークは12月に実施。台湾の生徒と共同研究することで、英語運用能力の向上を図るとともに、今までの研究をさらに進める。 ・文理学科の生徒全員が課題研究発表と論文作成をする。全教科の教員が指導担当に当たる。SSH アンケート「文理課題研究を通して『知りたい』と言う気持ちが高まった」70%以上を維持(R1年度 75%) ・「次期SSH事業開発チーム」を立ち上げ、3期申請の準備を始める。 エ. ・年度前半に経験年数の少ない教員対象の研修、後半に授業力向上についての研修を行う。 ・(生徒向け)学校教育自己診断「岸高での授業に満足」を85%以上に。 ・(教員向け)学校教育自己診断「学校は研修などで指導法の改善に努めている」の80%以上を維持。 (3) ・「朝読チャレンジ」(入試問題に挑戦)の活用 ・図書委員主催で教員より推薦する図書を掲載した「おすすめの本紹介の冊子」を作成し、活用する。	
	(2)GLHS・SSHとしての学力向上・活動内容の充実。 ア.4技能統合型の英語授業の導入。 イ.グローバルリーダー養成プログラム等によりディスカッション・プレゼンテーション能力を育成 ウ.地域協働や外部連携等により、SSHやGLHSの活動を深化。 エ.課題研究の指導手法を一般教科に広める。	(2) ア・新大学入試への対応と4技能の生徒の伸長を測定のためにGTECの全員受検を1年2年全員に実施。英検も希望者対象に実施。 イ.海外研修に参加した生徒によるレポートのまとめを作成し、11月に1年生対象に報告会を行う。 ・【グローバルリーダー養成プログラム(国内版)】海外留学生をリーダーとした夏のプログラムの充実。 【グローバルリーダー養成プログラム(海外大学版)】UCLAにて英語運用力やチャレンジ精神、コミュニケーション力、プレゼンテーション力等を鍛える。 ウ ・SSH鳥類海外フィールドワークを台湾の姉妹校と協働実施 ・2年生次より、課題研究の成果を論文にする。 ・昨年度のSSHの中間評価を受け、次期SSHへの準備を開始する エ ・「思考力・判断力・表現力」を育む「主体的で対話的な深い学び」の授業を教員が自主的に研究する教育環境を醸成する。 ・実践的な教員研修を年2回行う。		
	(3)「朝読」(読書活動)を実施し、教科指導と連動し、有効に活用する。	(3) ・朝読が「読解力」「論理的思考」「分析力」の育成や「小論文」指導等に繋がる教員各自の教科指導やHR指導の工夫をする。		
	(1)GLHS、SSH事業を活用して3年間を見据えたキャリア教育	(1) ア ・卒業生による職業講話や、大学教授等の出前講	(1) ア ・学校教育自己診断の講演会等の質問項目の肯	

府立岸和田高等学校

ための健康と体力をはぐくむ取組み	(2) 教育相談室(教育相談 & 支援教育)の充実。 (3)台湾の姉妹校やドイツの高校との相互交流や協働研究で、グローバルリーダーとしての精神を育成。	・いじめ防止や人権教育の推進のための教職員や生徒への研修を実施する ・朝の挨拶運動や交通マナー指導をはじめ、定期的な遅刻を実施 (2) ア ・教育相談室(教育相談 & 支援教育)の円滑な運営を行う ・教育相談室への、生徒・保護者・教職員の利用をすすめる ・スクールカウンセラーの助言と共に教育相談室が中心となり、教職員の意識・スキル向上をめざした事例検討会を開催する。 ・外部のカウンセラーを定期的に活用し、精神的ケアの必要な生徒・保護者・教職員に適切な支援を行う。 (3) ・台湾やドイツの学校との相互交流を深める。 ・ドイツとの交流をはじめ、GLP(校内版)等でのホームステイ受け入れ家庭を拡充し、生徒や保護者の異文化理解を進める。	がける。 ・(教職員)「学校はいじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応する」80%以上を維持(R1年度88.4%) ・総遅刻数10%(約200件)減をめざす。 (生徒向け)学校教育自己診断「社会人としてモラルを守る態度を育てようとしている」を80%以上に。(R1年度88.3%) (2) ア ・教育相談を中心に、生徒に関する情報共有を担当会議、生活指導部会において、その他随時に対応。 ・生徒、保護者、教職員向けに相談だよりの年間5回以上の発行およびその内容の充実 ・年間1回以上の、事例検討会を実施。また、支援が必要な生徒の対応は随時迅速に行い、週1回行われる学年担任会議や生活指導会議で共有する。 (生徒向け)学校教育自己診断における「困ったときに気軽に相談できる」を70%に(R1年度65.8%) (3) ・ホームステイ受入家庭を10家族以上。	
4 地域・保護者との連携と社会参加・社会貢献	(1)地域や保護者に活動の情報を発信。 (2)地域を中心とした社会参加・社会貢献。 (3)安全で安心な学習環境の充実、。	(1)情報発信 ア ・本校 Web ページの「SSH ブログ」「岸高アーカイブ」(科目・部活動の課題研究成果)「教育コレクション」「校長ブログ」などを通して本校の教育活動の広報を推進する(継続) ・文化祭や体育祭、生徒研究発表会を保護者や地域に公開する イ ・学校 Web ページを更新し中学生に魅力あるものにする ・メーリングリストによる情報発信と災害時等に安否確認を確実に出来るように努める (2) ア ・地域の幼稚園との計画的な交流を実施し、防災教育・共同避難訓練を行う。 イ ・岸高桜祭の内容を精選し、生徒中心の運営にシフトし、生徒が主体的に地域連携について関わる機会になるよう努める ・岸和田市の NPO と連携し、岸和田市の発展に貢献できる取り組みを模索する (3) ・ノークラブデ이의励行と全庁退庁日の徹底 ・部活動や文化祭等の行事の効率化を図る	(1) ア、イ (保護者向け)学校教育自己診断における情報提供の満足度 90%以上を維持する。(R1年度90.1%) (保護者向け)学校教育自己診断結果における「国際交流 SSH などの特色ある教育活動」80%以上維持する(R1は、95.8%) イ ・学校 Web ページの更新を外部委託し、より見やすくする。 ・必要に応じて学年ごとにメール配信を行う。 (2) ア・地域の幼稚園との交流を各学期に1回、年3回以上実施。その中で防災教育を連携して行う。 イ ・岸高桜祭の参加クラブ数4クラブ以上 ・近隣小学生、卒業生を招いた食育、クッキング教室の開催を年3回以上実施 ・地域の和菓子店と共同で地元の特産品を使った菓子を開発する。 (3) ・随時、教職員に退庁の呼びかけを継続。 ・週休日等における自習室開放日を精選し、教員の週休日勤務の負担を軽減する。 ・部活動指導員等、外部の指導員を活用し、教員の指導負担を軽減する。 ・時間外勤務の月平均時間の年間(4月～2月)平均の時数の5%削減(R1年度10.1%削減)	